

2.3 図表と相互参照

2.3.1 文章中に表を入れる

第 1.7.2 節 (13 ページ) の表 1.2 のような表を文章中に挿入する場合、例題 10-1 のようなファイルを作ります。

例題 10-1

(入力)

```
%\test10-1
```

```
\documentclass{jarticle}
```

```
\begin{document}
```

文字の大きさを変える命令には次のものがあります。

これらのうち、`\verb/\normalsize/` は標準の大きさなので特に指定する必要はありません。

また、これらの命令も適用範囲を `{\{ } {\}}` で囲みます。

`\begin{table}[h]` ← 表挿入の命令。[h] はここに出力の意味。

```
\begin{center}
```

`\caption[文字の大きさを変える命令]{文字の大きさを変える命令}` ← 表のキャプション

`\label{size}` ← 表のラベル。これを参考にして文章の中で番号の参照が行われる。

`\begin{tabular}{|c|c|} \hline` ← ここから、表組みの命令が始まる。`{|c|c|}` は、要素 2 つ、中央揃えで罫線を縦の要素ごとに、横は上 2 行と最終行にひくように指定。

入力&出力\\ \hline \hline

```
\verb/{\tiny 見本}/&{\tiny 見本}\\
```

```
\verb/{\scriptsize 見本}/&{\scriptsize 見本}\\
```

```
\verb/{\footnotesize 見本}/&{\footnotesize 見本}\\
```

```
\verb/{\small 見本}/&{\small 見本}\\
```

```
\verb/{\normalsize 見本}/&{\normalsize 見本}\\
```

```
\verb/{\large 見本}/&{\large 見本}\\
```

```
\verb/{\Large 見本}/&{\Large 見本}\\
```

```
\verb/{\LARGE 見本}/&{\LARGE 見本}\\
```

```
\verb/{\huge 見本}/&{\huge 見本}\\
```

```
\verb/{\Huge 見本}/&{\Huge 見本} \\ \hline
```

 ← 最終行に横罫線をひく。

```
\end{tabular}
```

 ← ここで、表組み終わり

```
\end{center}
```

```
\end{table}
```

 ← 表挿入終わり

```
\end{document}
```

長い文章中では、表番号が問題になってきます。T_EX では、表の一つ一つにラベルを貼ることで、番号を参照するので、文書作成中に別の表を加えなくなったり、逆に表を削除したくなったり、番号を付け替えたり、文章中に書き込んだ表番号を書き換えたりする必要はまったくありません。異なる表に同じラベルをつけることはできませんが、ラベル中の大文字、小文字は区別されます。